

- 1 開催日時** 平成28年9月29日(木)
午後1時30分～3時30分

開催場所 小牧市役所 本庁舎6階 601会議室

2 出席者

- (1) 市民会議委員 17名
- (2) 事務局 協働推進課：入江課長、堀田係長、葛谷
- (3) 傍聴者 1名

3 会議資料

会議次第

地域協議会の進捗状況について(資料1)

地域協議会の単位について(資料2)

(仮称) ありがとう地域ポイント制度について(資料3)

【参考資料】市内の小学校区域図

【参考資料】小牧原小学校区域図

4 会議内容

- 1 会長あいさつ
- 2 地域協議会の進捗状況について
- 3 地域協議会の単位について
- 4 (仮称) ありがとう地域ポイント制度について
- 5 その他

【司 会】

皆さん、こんにちは。

それでは、ただいまから第18回地域協議会市民会議を開催いたします。

本日は小牧市区長会の正門委員、こまき市民活動ネットワークの秦野委員、老人クラブ連合会の水野委員から欠席の連絡をいただいております、本日の出席委員数は17名です。また、本日は1名の傍聴の方がおみえですので、御報告をさせていただきます。

続きまして、皆様に市民憲章の唱和をお願いしたいと思います。

恐れ入りますが、御起立をお願いいたします。

お手元の次第の裏面をごらんいただきまして、私が先導させていただきますので、後について御唱和をよろしくお願いします。

[市民憲章唱和]

【司 会】

どうもありがとうございました。御着席ください。

本日の予定につきましては、お手元の会議次第のとおりであります。

まず初めに、稲垣会長から御挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

【稲垣会長】

皆さん、こんにちは。

このところ台風がよく来まして、なかなか秋の美しい空を見ることができませんでしたが、本日はお昼からからっと晴れまして、秋らしい季節になってきたなど感じる次第でございます。

本日は御多忙のところ、第18回地域協議会市民会議に御出席していただきまして、誠にありがとうございます。

当初、8月末に予定しておりましたが、諸事情により中止をさせていただきます。本日は約2カ月ぶりの開催でございます。

本日の会議は大きく3つ、まず最初に地域協議会の進捗状況についてということでございます。

これにつきましては、地域協議会が設立されております陶小学校区、篠岡小学校区、小牧原小学校区の3校区の取り組みについて事務局から報告していただこうと思っております。

次に、地域協議会の単位についてということで、これは前回林委員や小

柳委員からも御意見や御指摘をいただいておりますが、地域ごとの事情について、市の考え方、そして一定の方針を示してほしいという意見を受けまして、一度、その辺りを整理して説明させていただくということでございます。

それから最後に（仮称）ありがとう地域ポイント制度についてということで、市の方で鋭意検討中ということではありますが、現時点での進捗状況について報告していただくということになっております。

そんなようなことで、委員の皆様方には是非、活発な御意見を出していただきまして、地域協議会が少しでも前に進むように御協力していただけたらと思いますので、よろしく願い申し上げます、挨拶にかえさせていただきます。

【司 会】

どうもありがとうございました。

それでは、会の進行につきましては、会長が行うことになっておりますので、稲垣会長よろしく願いいたします。

【稲垣会長】

それでは会議を進めていきたいと思っております。では、次第の2、「地域協議会の進捗状況について」ということで、事務局から説明をお願いいたします。

[事務局から資料に基づき説明]

【稲垣会長】

ありがとうございました。

それでは御質問や御意見がありましたらお願いいたします。

【鳥居委員】

陶小学校区の住民交流夏まつりの報告がありましたが、これとは別に各区でも夏祭りや盆踊りは行われているんですか。

【事務局】

上末、下末、高根の各区では夏祭り、盆踊りという夏のイベントはやっていなくて、3区合同で、協議会として取り組んでいます。

【小柳委員】

やはりこういうものをつくり上げていくとき、行政としては、協働推進課が中心になってやっていただいていると思うんですが、行政として設立

された地域協議会の取組みに対してどんな印象を持っているのかということをお伺いしたい。

今、3地区で地域協議会が設立され、私はそれぞれ頑張ってやっていたと思っていますが、やはり成果のようなものが見えて来ないと、他の地区へ広がっていかないという気がします。

例えば陶地区では、3区が非常に結束をして努力されているということで理解しているんですが、そういった状況について広めていかないと、せっかく良いことをやってもなかなか他の地区に波及しないというふうに思いますので、その点をまずお聞かせいただければと思います。

それからもう1つ、いろいろ事業計画がある中で、ほとんどが自主財源ではなく、市からの交付金で実施しているという状況だと思いますが、本当にこれから続いていくのかどうか、今後の見通しとしてどうかなと思う部分がありますので、その辺りをお伺いしたい。

【事務局】

まず陶小学校区、篠岡小学校区に共通することですが、実際にやる前は分かりませんでした。本当にここまで真剣に地域の防災であったり、福祉であったりということについて、話し合いをしていただけたとは思わなかったというのが率直な感想です。

話し合いの中身で言いますと、陶小では特に福祉分野で、先ほど報告させていただいたサロンを始められました。もちろんサロン自体は珍しい活動ではなく、ここ数年、市内でも区単位であちらこちらに立ち上がってきている状況であります。

ただ、陶では、サロンを通じて仲間づくりができたところで、気のいいグループに少しお声がけをして、地域のお助け隊を結成し、そのお助け隊で地域のお年寄りの日常生活におけるちょっとした困りごとのお手伝いをしていこうという明確な目標をもってスタートされました。

また、その目標を皆で共有するためにサロンの発会式を企画され、できるだけ大勢集まっていたいただき、その目標をしっかりと伝えてから始められたというようなことで、市としても他の地区ではなかなか聞かれないような動きで、我々がそういう言い方をしているのかちょっとわからないですけど、すごいなと感じました。

篠岡小では、子ども部会と福祉部会と防災防犯部会という3つの部会において、それぞれ関係する方が委員になられ、話し合いを始められた状況

の中で、特に防災防犯部会では、まずは広域防災訓練を一緒にやってみようということでスタートしたんですが、反省点や今後の地域での防災について協議会の方々が話し合いを重ねる中で、自分たちでやっていけないといけないという雰囲気が出来上がっておりまして、先ほどの説明でも触れましたが、行政としても避難所運営を地域で主体になってやっていただけるとありがたいということをおもっています。

本来は行政や消防が担っていけない部分もありますし、実際にはなかなか真正面から言いにくい部分があるんですが、自主的に自分たちでやる前提のスタンスで進めていただいている姿勢が大変ありがたいということを感じています。

小牧原小は、規模も大きく、関係する区も多いため、陶小や篠岡小と同じことをやると言っても単純に当てはまるものではないということで、まず慌てて何かをやるということではなく、本当に必要なことをやろうということで進められています。

具体的な動きには時間がかかるかもしれませんが、市からも地域のペースでやってくださいというようなこととお話しさせていただいています。

いずれにしても、どの地域も我々が考えている以上に真剣に地域のことについて考えていただいているというのが印象です。

また、他の地区への波及ということについては、いくつかの地域で勉強会や意見交換会を開催させていただいておりますが、今年に入ってから、陶小と篠岡小では具体的に何をやっていて、どんな状況かを教えてほしいという意見をいただいております、そういう情報を加えながら説明をしておりますので、より具体的なイメージを持っていただけているのではないかと考えています。

あと、協議会の自主財源確保ということで、陶小では多少、区の負担金という形で自主財源を入れている部分はありますが、篠岡小では、現在のところ、交付金のみで事業を実施している状況なんですが、実は事業の計画を練っていく段階で、参加費を取るかどうかという意見は出ていたんですが、協議会が立ち上がったばかりの状況で、さらに初めてのイベントということもあり、参加者の見込みも全く見当もつかない状況でしたので、1年目は参加費は無しにしようということになったという経緯があります。

ただ、市からの地域助け合い交付金のルールでは、交流促進型、要するにイベント系のものに対して事業費の30%までという制限があるものです

から、これ以上篠岡小でイベント系のものをやろうとすると、財源的にも余裕がなくなってくるので、今後の事業で、もし新たなイベントを企画される場合には、参加料を取ったりだとか、そういう自主財源の確保について検討していかなければいけないという状況になってくるかと思います。以上です。

【小柳委員】

私自身、いろいろとお聞きすることも多くて、皆さん、頑張ってやってみえると思いますが、いいことばかりではなくて、苦労話も随分聞いております。

また、自分たちもいろいろな活動をやれる範囲でやっていて、補助金なんか厳しい制限の中でやっております。そういうことからすると、この地域助け合い交付金というのは、少し弾力性があるのかなということを感じています。

最後に、職員の皆さんに限られた人数でやっているものですから本当に大変だろうと思うんですが、やはり3年くらい経過した地域から、活動の実績報告をしていただけると良いのかなと思います。

私のところはこういう努力で、こういう苦労がありましたけど、今こういうふうに、皆で絆を高めるための努力をしています、というようなことを報告していただけると、他の地区にも波及し、プラスになるような気がします。

結局、いいことばかり言っておってもだめなんですね。どういう苦労をして、汗をかいて、時には相当の議論をした、というような状況からこうして築き上げてきんだ、という実績報告の機会をつくっていただければありがたいというふうに思います。以上です。

【林委員】

いきいきサロンについてお伺いしたい。我々も『ふらっとみなみ』でふらみなサロンを立ち上げて活動しており、社会福祉協議会の補助金をもらっていますが、陶小のいきいきサロンに対しても、その補助金が出ているのかどうか、地域協議会の交付金と二重になっていないかどうか、その辺りを伺いたい。

恐らくこういったいきいきサロンのような活動が地域で発展していくと思うし、これから立ち上げていく人のためにも、確認させていただきたいと思います。

【事務局】

8 ページに陶小学校区のいきいきサロン事業の予算書をご載せさせていただきます。実は昨年、事業を計画する段階においては、こういう予算で計画しておりました。

収入のところを見ていただきますと、協議会の交付金が6万円、諸収入で3万6,000円、これは先ほども説明しましたが、参加者の参加料1回あたり100円を見込んだものです。

ただ、先ほど、ご意見があったとおりに一般的にサロン活動をする場合には、社会福祉協議会の補助金を活用しているということから、陶小のいきいきサロンも地域協議会ということで特別扱いのような誤解を受けるといけないので、他の地区のサロンと同様に社協の補助金を活用しようということになりました。

ですので、決算の段階では、地域助け合い交付金というのは予算に対して執行はゼロで、その代わりに社会福祉協議会の補助金という項目が上がってきて、今、金額は分かりませんが、その数字に置き変わると思います。結論として補助金の重複はありません。

【林委員】

そうですね。それなら結構です。ありがとうございます。

【堀尾委員】

少し話がそれるかもしれませんが、社会福祉協議会も寄附がどんどん増えていけばいいんですが、決算書を見るとなかなか厳しいものがあります。

赤い羽根協同募金にしてもそうですけど、3年ぐらい連続で下がっており、こういう状況が今後も進んでいくだろうということで、そこら辺がちよっと危惧されると思います。

それで、地域協議会の関係ですが、北里地区では区長が1年交代という状況で、どのように進めたら良いのかが分からないというのがほとんどの人の本音だと思いますので、その辺りを協働推進課にはバックアップしていただきたいと思います。

ただ、それぞれの小さな単位では既にいろいろなことをやっていることから、それをどう小学校区単位のまとまりにつなげていくのか、前回も林委員から今、地域の各種団体へ出ている補助金を廃止して、地域協議会へ一括して出したらどうかという意見がありましたが、個人的にはそれも一つの方法かなということでは思いました。以上です。

【吉田委員】

小牧原小学校区の取り組みで、地域づくりミーティングというのがあって、民生児童委員と話し合いをしたということですが、具体的にどういった内容で、どんな意見が出たのかということをお教えいただきたいと思えます。

【事務局】

小牧原小学校区では民生児童委員さん方に初めて地域づくりミーティングという形で意見交換会を実施され、我々事務局も出席させていただきました。

内容としては、協議会の会長さんから趣旨説明を行ったうえで、民生委員さんたちがやってみえる日頃の具体的な活動内容と、活動する中での困りごとをお教えしてほしいという趣旨の内容のアンケート用紙を配らせていただいたという段階です。

今、市の福祉総務課や社協とも連携してやっております、まずは出されたご意見をまとめ、もう一度、改めて意見交換の場を設けたいということで進めております。なお、保健連絡員さんも同様の形で行う予定です。

【稲垣会長】

そのほか、よろしいですか。

それでは、次に移りたいと思います。では、次第の3、「地域協議会の単位について」ということで、事務局から説明をお願いいたします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【稲垣会長】

ありがとうございました。

今回はいろいろな参考資料も出していただいたので、単位の課題について、具体的に御理解いただけたのではないかと思います。

では、御意見や御質問がありましたらお願いいたします。

【小柳委員】

今、いろいろと説明をいただき、状況はよく分かりましたが、今まで小学校区単位ということですと進められてきて、結局、思うように設立が進まないということで、私が問題提起をさせていただいたのは、小学校単位を基本としながら、もう少し柔軟な考え方ができないかなというふうに思っているんです。

例えば、協議会の範囲は、さまざまな課題に対応していくためには、自治会の枠を超えた取り組みが必要になってきます。同時に同一の生活圏であることも大切です。そこで、従来の自治会の連携を軸として、また自治会活動のさらなる充実を目指す観点から、連合自治会区域を基本とし、公民館区域や小・中学校区域など、地域の事情に応じて決定をします。

協議会の組織体制については、協議会はそれぞれの地域の最も適した組織体制を構築することが大切であり、自治会、PTA、老人クラブ、子ども会など、地域で活動する各種団体、NPO法人、事業者、企業などによる幅広い層からの参加を求めるとともに、公募等によって誰もが参加できる開かれた組織体であることが大切です。

また、既存の組織が活用できる場合には新たにつくる必要もなく、あくまで地域が今まで築いてきた歴史や文化、伝統を尊重し、それぞれの事情や特性に応じた組織づくりを行うことが大切です。ということで、実はこれは滋賀県長浜市の地域協議会の今後の課題や今までの経過を踏まえた考え方なんです。

私も区長会であちらこちらに先進地視察ということで勉強に出かけさせていただいたんですが、長浜市が非常に整備されていると感じました。南部地区、西部地区のコミュニティ単位もある意味では認めていくというようなことを積極的にやられているんです。

ですから、そういう先進地の考え方を参考にし、小学校単位を基本としながらも、地域ごとの実情を含めて認めていくということが大事じゃないかなと思います。

今、熱心に小学校区単位のエリアの関係、あるいは小学校から多少はみ出している、場合によってはエリアに入れていくということができれば、それはそれで素晴らしいんじゃないかと思います。ただ、今のようなこともある程度基本はありながらも、弾力性をもっていくということが付け加えられれば、この先は非常に明るいものになってくるんじゃないかなと思います。

【稲垣会長】

ありがとうございます。

小柳委員の御意見に対して、事務局から何かありましたらお願いします。

【事務局】

小牧原小学校区の方でも、参考資料の地図でいきますと、何が何でも赤

い線でやらなきゃいけないという考え方ではありません。また協議会の方も、そこまでがちがちでやるという認識はないので、その部分については柔軟に弾力的にやっていただければいいかなと思っております。

【林委員】

小牧原小学校区で、はみ出したエリアについては、両方の小学校区に関わるのか、小牧原小学校区だけに関わるのか、また、両方の小学校区に関わっているとすると、区の役員さんは両方に顔を出さないといけなくなる。特に南部地区の北外山区では、大体、四分六の割合で米野小と小牧南小に分かれているんです。そうなるとどっちかを選ぶという訳にも行かず、役員さんは両方へ関わるということになって、こちらでも夏祭りをやった、次の週になったら、こっちでもやるというように同じような行事が重複したり、防災訓練を2回やったりということになると思うんで、小牧原小学校区の場合には実際にどうなっているのかをお伺いしたい。

【事務局】

小牧原小学校区では、先ほどの一覧表のとおり12区でやっておみえです。地図でいきますと赤い枠で囲われている区は、小牧原小学校区地域協議会という形での連携が始まっています。

赤い線からはみ出た区は、隣の小学校区にも関わるのかというお話ですが、それについては考えていません。

林委員が言われたとおり、ひとつの区が両方の小学校区に関わるということは、この制度を決定する以前に、区長さん方からの御意見として、市はこういう場合、区で決めてくださいという言い方をするけれど、区長の立場からすると、やはり一部でも区民が隣の小学校へ行っていれば、そちらの小学校ともお付き合いをしなければならなくなってしまうので、市から原則でいいから、言い方としては、どちらか一方でという言い方をして欲しいという意見が圧倒的に多かったことから、こういった一覧表を作成し、こういう区割りで行きましょうということでお示しをさせていただいています。

ただ、先ほど林委員も言われた南部地区の北外山区と味岡地区の小松寺区については、規模も大きく、二つの小学校区にほぼ真っ二つという状況から、この二つの区に関しては、両方の小学校区へ関わっていただくことを考えざるを得ないのかなというふうに考えています。

【林委員】

ということは、北外山区と小松寺区が関わる小学校区は、負担が大きく、難しいということになってしまうんだけどね。

それと、先ほど小柳委員が言われた単位の関係、既存のコミュニティとの整合性という部分で、我々の南部地区、西部地区、こういうものについて、認めていく方向性なのか、どうか、市から方針を打ち出してもらえるとありがたいと思うが、どうですか。

【事務局】

方針ということではありませんが、現時点では、区と小学校区の境界が一致してない地域ですとか、既存のコミュニティ組織が活発に活動されている地域につきましては、地域の方々と十分に調整を図って進めていきたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

【小柳委員】

小学校区ということで、何とか進めたいという気持ちはわかるんだけど、例えば防災訓練は必要だからやりましょう、確かにこれだけ台風、豪雨災害が起きているもんですから、重要なテーマではあるんですが、そうではないと思うんです。やはりこれから少子高齢化の厳しい時代の中で生きていくには、もっとハートが結びつく、地域の絆が深まるというような形でいくべきではないかなと思います。

そこら辺に力点を置くと、南部や西部の既存コミュニティの関係について、それを無視してやれということになったら、それは問題が起きんほうが不思議だと思います。

ですから、その辺りをどう幅広く受け入れていくかということと、今やっているところには敬意を払って、さらに充実をしていくように指導をしていただくということで進めないといけない。

その辺りは事務局も苦勞しているとは思いますが、そこをクリアしてもらえれば、更に進むんじゃないかなと思います。

【稲垣会長】

貴重な御意見ありがとうございます。

【小川委員】

私も小柳委員の意見に賛同します。もともとこの市民会議で議論した結果、単位については、まず第一歩として、小学校単位を基本に検討を進めると、こういった意見を出され、それを受け、まずは小学校区単位での協

議会設立に向け、丁寧に調整を進めていきますという考え方を市のほうで示されている訳です。

このときからもう3年が経っておりまして、一体あと何年丁寧に進めていったらいいのかということなんです。

といいますのは、私がここの委員になって1年目ですから、皆さんの意見をお聞きして、ああ、そうかなという部分もあるんですが、長くこの委員をやってみえる方は、毎回毎回同じような意見を言ったり、聞いたりしてみえると思うんです。

ですから単位については、もうそろそろ違う方向、考え方に変えていく時期に来ているんじゃないかと思いますが、事務局のお考えはどうですか。

【事務局】

先ほども課長から申し上げたとおり、今のところもう少し小学校区単位を基本に頑張っって進めていきたいというふうに考えています。

【林委員】

単位については大きな問題だと言うことで、何度も話し合いをした経緯があって、中学校単位では大きすぎてまとまらないだとか、今後、小学校の空き教室を活用しようだとか、いろいろな理由の中で、小学校単位でやろうよということに決まった訳だから、小学校単位でできるだけやってみようということが基本だろうと思っています。

ただ、やっぱり決めたから小学校単位だけということだけでなく、小柳委員からも意見があるように、どこかでこれはやむを得ない、ここは認めるべきだろうというところが出てきたところは、ある程度認めてもらってやると進んでいくんじゃないかなあとと思っています。

小学校単位に決めたものの、いつまでも固執して結果が出ないようなことではいけないと思っていますので、ある程度の時期を見計らって、その地域に合った形で設立してもらおうということも必要じゃないかなあと考えております。以上です。

【稲垣会長】

では、いろいろな意見が出されましたが、時間の都合もございますから、この辺りで次に移りたいと思います。

では、次第の4、「(仮称) ありがとう地域ポイント制度について」ということで、事務局から説明をお願いいたします。

[事務局から資料に基づき説明]

【稲垣会長】

どうもありがとうございます。

では、御意見や御質問がありましたらお願いいたします。

【林委員】

いきいき健康ポイントという制度が既に始まっておりますが、なかなか使い勝手が悪いという声を聞いておりました、現実的には期限内に全然ポイントが貯まらなくて、せっかくやったのに何にもならないという方が多いということです。

ですので、今後新たに始める制度については、そういった意見を踏まえ、ある程度持続的に長くやってもらえるような形を考えてもらう必要があると思います。そういう意見です。

【上坂委員】

以前から思っておりますが、今、地域でいろいろな団体やボランティアの方が活動されているんですが、全部ばらばらになってしまっているんで、そういう既存の活動だとかを一旦やめちゃって、ポイント制にまとめてしまって、一定のポイントが貯まったら、プレミアム商品券とかに切りかえられるような形にできると良いのかなと考えています。

とにかく今は、何か活動をやると、助成金や補助金がもらえるような状況で、一度整理する必要があると思っています。

そのためのひとつの方法として、新たにポイント制度検討委員会を立ち上げ、そこで制度をまとめていったらどうかなということを考えています。

【稲垣会長】

貴重な御意見ありがとうございます。

他によろしいですか。無ければ本日はこれで閉めさせていただきたいと思いますが、本日の会議を振り返って、協働推進課長がお気づきになった点、あるいは補足説明が必要な点等があれば、まとめてください。よろしくをお願いします。

【事務局】

皆さん、長時間にわたりまして、また貴重な御意見をたくさんいただきまして、どうもありがとうございます。

私ども協働推進課といたしましても、地域ごとに勉強会ですとか説明会などを実施しながら、また委員の皆さん方からの貴重な御意見を参考にしながら、地域協議会の設立に向けて今取り組んでいるところでありますが、

現在は3つの小学校区での設立ということで、市内全域にはまだまだということをご認識しております。

それで、設立に至らない原因というものは、本日も御意見をいただいておりますように小学校区と区の範囲が一致していないですとか、既存のコミュニティとの整合性などといった様々な要因があるということで、今後も引き続き、区や既存コミュニティの方々と十分に調整を図っていきたいと考えております。

このような状況の中ではありますが、現在、設立されている3つの小学校区におきましては、地域の実情に合った取組みが行われているところであり、地域活動の活性化や地域の絆力の向上に繋がっているものと考えております。

繰り返しになりますが、現時点においては、制度方針に基づきまして、基本は小学校区を単位として進めていき、区長を始めとする地域の皆さん方に対し、この地域協議会の必要性などについて丁寧に説明をし、また御理解をいただく中で、実効性・継続性のある地域協議会の設立に向けて進めていきたいと考えておりますので、よろしく御理解のほうお願いしたいと思っております。

最後になりますが、ここで事務連絡をさせていただきたいと思っております。

今年度の会議の開催予定につきまして、当初にお配りいたしました予定表の中で、来年、平成29年3月に今年度の振り返り、まとめということで、あと1回の会議を予定しているところではありますが、地域協議会の進捗状況によっては、3月までの間におきましても臨時的に会議を開催することがあるかもしれません。

そのような場合には、改めて文書にて御案内をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思っております。

事務局からは以上です。

【稲垣会長】

どうもありがとうございました。

それでは、第18回の地域協議会市民会議、これをもちまして終了させていただきたいと思っております。

長時間に亘り、ありがとうございました。